

## 第5回花巻市行政評価委員会会議録（しごと部会）

### 1 開催日時

平成27年8月21日（金） 午後3時30分～午後5時00分

### 2 開催場所

花巻市花城町1-47 まなび学園3階 第5学習室

### 3 出席者

委員 6名

影山部会長、伊藤委員、小山田委員、折居委員、瀬川委員、高橋委員  
事務局、施策主管課

### 4 課題及び報告事項

#### ◆施策：生産基盤の整備

- ・ 水田整備率は最終的に100%を目指すものなのか？  
→ 100%は現実的には難しい。当面はH30までに80%を目標としているもの。5年サイクルで見直しを図っており、例えば、現在30aのところ1haに転換する等の可能性もある。（瀬川委員より：国が担い手に求める農地集積の目標が80%であるところに由来しているのではないか。そうであれば妥当である。）
- ・ 作業効率向上というからには、機械化の目標はないのか？  
→ 「生産施設等整備事業」で取り組んでいる。農産物の販売（生産）量の増加率5.0%を目指しているが、天候不順等により成果が思わしくなかった。また、機械導入によりすぐに効果が出るわけではない。
- ・ 「共同作業による農業資源管理面積」指標の実績14,452haほどの資料を見ればわかるのか？  
→ 事務事業評価シートでは示されていない。14,452haの内訳は、多面的12,999ha、中山間2,781ha、重複▲1,328haである。（⇒これに対し、わかりづらいとの意見あり。）
- ・ 施策の総合的な評価に記載のある棚田の整備についての事業は？  
→ 土地改良事業4-2において取り組んでいる。
- ・ 農業の生産性の向上については水田のみではないはずである。水田整備率だけでなく、畑（野菜・果樹など）の面積についての目標はあるのか？  
→ この施策の中ではない。（影山部会長より：成果指標に牧草地の整備なども加えて水田と畜産関係の指標をあげると、施策の取り組み状況が現れるのではないか？成果指標についても、天候に左右される販売額等ではなく、生産量などで計ると良いのではないか。）
- ・ 草地更新事業の成果がCの理由は？  
→ 完了面積が目標より低いためであるが、酪農家が当初希望していても高齢化などにより遠慮したことなどが原因。（影山部会長より：事務事業そのものの要因で成果が下がったものではない。）
- ・ 放射性物質を含むほだ木はすべて処分してゼロになるのか？

→ 農家の敷地内にあったものを動かして一時保管している状況。生産再開に向けて、岩手県で検査を実施するが、基準値を超えればまた処分しなければならない。ここ数年でゼロになるとは言いきれない状況である。(瀬川委員より：焼却灰も汚染されており、その最終処理についても課題を抱えている。)

・ (農) 胡四王みらいの補助金の使途は？

→ 瀬川委員より：種籾の生産である。

・ 木材の供給(林業)についての目標は？

→ バイオマス発電への木材の供給や間伐材の利用などについては現時点では目標値なし。工場などまだ準備中であることから、これからとなる。

・ この施策の目標は、耕作放棄地などを抑制する「マイナスを抑える」ことか、有効活用する「プラスに向かう」ことか？

→ 地域での農地保全活動を通じプラスに向かうことである。

#### ◆成果指標について

・ 水田ばかりではなく、畑や牧草地に係る指標があった方が良い。(⇒これに対し、農村環境保全事業では田畑が対象であり「地域共同による農業資源管理面積」には含まれているとの意見あり。)

・ 生産量が増えた・作業時間が減ったといった生産性・作業効率が向上したとわかる指標がない。成果指標の説明の欄に具体的に説明を加えた方が良い。

・ 「地域共同による農業資源管理面積」については H26 実績がすでに H28 実績を超えている。(⇒これに対し、H26 から国の制度が変更になり該当面積が増えたものであるとの意見あり。)

・ 水田整備率が上がるだけでは意味がない。米価下落により農家所得は下がっているし、農家は整備負担もしなければならぬため、振興作物などと複合的に考えなければならない。

・ 成果指標の達成状況に、水田整備率については岩手県よりも高いとの記載があるが、岩手県の整備率も併記すべき。また、後継者のいない農家の農地の貸し借りがスムーズに進んでいるとの記載があるが、事務事業では現れていない。現状と課題にリンクするように丁寧に説明すべき。

#### ◆事務事業について

・ 「農林業系副産物処理事業」について、ほだ木の焼却灰の放射性物質の課題など最終段階まで考えていかなければならない。

#### ◆施策の総合的な評価について

・ 棚田(水田)だけでなく、畑や牧草地についても課題があるのではないか。

・ C 評価の事業について、何か課題がありそうではあるが。(⇒これに対し、関係機関とともにさまざまな事業を行っているが、天候や個々の農家の取り組み状況などに左右されるため、思ったとおりには行かない現状があるとの意見あり。)

・ 環境保全型農業について、地域の環境・歴史なども含め、啓発事業を総合的に進める必要あり。

## 第5回行政評価委員会会議録（暮らし部会）

### 1 開催日時

平成27年8月21日（木） 午前10時00分～午前11時40分

### 2 開催場所

花巻市花城町1番47号まなび学園3階 第5学習室

### 3 出席者

委員 5名

鈴木部会長、尾美委員、戸来委員、高橋委員、西村委員  
事務局、施策主管課

### 4 課題及び報告事項

#### ◆施策：自然災害対策の強化

- ・ 成果指標の「水や食料、備品等を備蓄している市民の割合」は目標値を下回っているが、基準年度よりも大幅にアップしているため成果はAに値する。努力されている。また、もう一つの成果指標「自然災害時における避難場所を把握している市民の割合」も大幅にアップしており、ハザードマップ等の賜物だろう。  
→ エリアメールの送信により、意識が変わったのではないか。土砂災害危険箇所等の作成により、目を向けてくれているのだろう。
- ・ 災害発生時の避難場所となっている振興センターから離れている人たちもいて、避難するのが危険である。また、振興センターへ行くまでの間に、近場でどこか無いか対策が必要ではないか？  
→ 指定緊急避難場所や指定避難場所について、今年度避難場所の見直しを行った。この他に、自治会独自に一時避難場所を定めている自治会が約7割あり、多くは、自治公民館である。避難訓練の際に、避難場所を示した地図を配布する予定である。
- ・ 高齢者や足の不自由な人へのフォローもお願いしたい。  
→ 災害時要支援者に対する対応方法について、自主防災組織内で決めている自治会もあるが、少ない。これから啓発活動を行う予定。
- ・ LPガスの設置をあと1・2箇所増やしてほしい。ガスのおかげで東日本大震災の時も炊き出しができた。  
→ ガス爆発の可能性を市民が恐れている。住民説明会を数回行い、置かせてもらえることとなった。
- ・ 避難に際してのリーダーの育成が必要では？実際に避難できる状況を作っておくことが必要なのではないか。図上訓練では足りない。

→ 訓練に積極的な地域はよくやってくれているが、リーダーになることに尻込みしているようである。避難訓練を実施すると、見学に来る人たちもいる。その際に学んでもらえれば。

◆成果指標について

- ・策が複数の課に跨っているため、提案は難しい。中期プランが終了した際に項目の見直しをすればいい。
- ・新たな成果指標として「危険個所の整備率」を成果指標としてみてはどうか。
- ・行政側で計画を立て直す際に検討してほしい。

◆事務事業について

- ・災害対応型機器機能強化事業は、施策を実現させるために重要な事業であると考えられるため、更なる向上を期待する。

◆施策の総合的な評価について

- ・「6 施策の総合的な評価」の課題欄は、このままの書き方だと、2-3-1 危機管理体制の強化に該当するのではないか。
- ・この施策では、「関係自治体との連携状況」や「ハザードマップの周知」という表現が適切なのではないか。

◆記載内容について

- ・【3 自然災害防止対策事業】について  
成果がCとなっているのは、実績が目標に満たなかったからだと思うが、予算化されているのにも関わらず、実績値が0㎡というのはどういうことか。
- ・【4 河川排水路回収事業】について  
事業個所が16箇所となっているが、事務事業評価シートの活動指標では8件となっているのはどういうことか。
- ・記載内容が説明不足のように思える。事務事業評価シートの成果指標の達成度の要因分析欄に記載するなどしてもらえるとわかりやすい。整合性を取れるようにしておいてほしい。

## 第5回行政評価委員会会議録（人づくり・地域づくり部会）

### 1 開催日時

平成27年8月21日（金） 午後1時30分～3時10分

### 2 開催場所

花巻市花城町1-47まなび学園3階 第5学習室

### 3 出席者

委員 4名

堀籠 部会長、福盛田 副部会長、中村 委員、佐々木 委員  
事務局、施策主管課

### 4 課題及び報告事項

#### ◆施策：先人の顕彰

・先人顕彰推進事業で、まだ知られていない先人の掘り起しを行ってきたとのことだが、どういった先人を対象としたのか？

→平成26年度は、盛岡藩焼物師 古館家や、新渡戸忠之丞、後藤清郎などにスポットをあて、共同企画展などで紹介した。「地元こんな人がいたんだ」ということを市民（子供たち）に知ってもらいたい。

・佐藤昌介についても知らない人が多いと感じるので、もっと紹介してほしい。

→紹介していきたいと考えている。

・「花巻の文化を高めた先人・百七十人」に取り上げられている先人にもスポットをあてて紹介してはどうか？

・新たな先人の掘り起しが十分でないと感じているようだが、掘り起しにあたっての考え方とかはあるのか？

→合併時に各地域の先人をリストにはしたが、整理できていない状況。先人の名前は分かるが、業績等の詳細が分からない等。今後は、詳細を整理し、たとえば副読本にするなどして紹介できるようにしたいと考えている。

→先人を紹介するための資料が現存していなかったり、学芸員の研究が進んでいなかったりと、先人を紹介する企画展に繋げにくいものもある。

・先人に関する資料等、図書館にあったり、博物館にあったり分散している。これを一括で分かるようになると便利では（県立図書館の横断検索システムは便利）。

・賢治さんの香りあふれるまちづくり とは、どういうことを目指しているのか？

→学ぶ場づくり、イベントの実施、関連施設整備、情報発信 により、賢治と賢治のまち花巻の魅力を感じてもらう。

・賢治ゆかりの地案内板の評価はどうか？

→マント部分が危ないなどの意見があり改修するなどあったが、地元へ説明しての設置等行い、周辺案内にも役立っている。

・各館の入館券について、リピーターを増やすため1回限りのものではなく、発行日より10日間有効で何回でも入館できるといったものを検討してはどうか？

→共通入館券があって、たとえば4館共通入館券であれば、4回同じ館に入館することが可能。

・4館共通入館券がそういった使い方ができるとは知らなかった（4館とは4種類の館のことかと思っていた）

・生涯学習交流課と宮沢賢治記念館、それぞれで行っている賢治に関するセミナーの違いは？

→記念館のセミナーは小・中・高校生が対象（一般もあるが）。生涯学習交流課のセミナーは、市民講座として全10回で一つのセミナーとして開催している。

◆成果指標について

- ・目指す姿に沿ったものとなっている。
- ・目標値の設定は適切である。
- ・先人の掘り起しの状況がわかる指標があれば良いのではないか。

◆事務事業について

- ・新たな先人の掘り起しを行う事業をもっと充実させるべき（事業を細分化するなどして）。
- ・先人のデータをデータベース化する事業に取り組んでどうか。
- ・現在の事務事業は、施策の目指す姿の実現に貢献している。

◆施策の総合的な評価につて

- ・先人の知名度を高めていくとしているが、具体の手法を示してほしい。
- ・現状維持だけではなく、発展性のある具体策を盛り込んだ評価としてほしい。

◆記載内容について

- ・わかりやすい記載内容となっている。

◆評価シートの構成・項目について

- ・文字が多すぎると、市民には伝わりにくい。チャートで表すなどして、問題点や問題解決の流れなどを分かりやすくしてほしい。文書による細かい説明が必要であれば資料として添付すればよいのでは？